参加者の就業現場の様子（ホスピタリティコース）

●杏ダイニング
（レストラン/カフェ スタッフ）

●MnK
（不動産管理）

●ニセコサプライカンパニー
（レストランバースタッフ&キッチン）

●NISEKO ALPINE DEVELOPMENT
（ホテル スタッフ）

●NISEKO MANAGEMENT SERVICE
（宿泊施設の物件管理等）

●HTM
（宿泊施設のハウスキーピング）

参加者の就業現場の様子（ビジネスコース・環境コース）

●IWANAI RESORT

（スキー場運営、企画）

●高橋牧場

（レストランや売店スタッフ）

●吉田聡司法書士事務所

（司法書士事務所で事務手伝い）

●ニセコ環境

（運輸、廃棄物処理等）

参加者の声

※エクスペリエンスニセコより一部抜粋

ON

●R.Mさん（関西大学2年・女性・炉ばたにせこ浪花亭勤務）

「異なる国籍や年齢、様々なキャリアを歩んできた人と出会う機会がたくさんあり、そんな時にどのようにその人たちと関わり、協働し、自分のスキルを活かしていくか。このような環境の中で、**多様性を受け入れることの大切さを学びました。**」

●H.Aさん（関西外国語大学・女性・YukiKamui勤務）

「**寮ではさまざまな国籍の外国人の方々と生活しました**。夜は毎日一緒にご飯を作って、素敵な時間を過ごしました。仕事で疲れて帰ったとしても、その日の疲れが吹き飛ぶぐらい楽しくて大好きな時間でした。土日の休日はみんなと一緒に遠出をしたり、町のお祭りやカラオケに行ったりと毎日が充実していました。」

●S.Sさん（関西外国語大学・女性・ニセコマネジメントサービス勤務）

「**職場の公用語が英語**なので、英語を使って仕事が出来る機会です。会社の方々が本当に親切でした。」

OFF

●N.Sさん（北星学園大学・女性・スカイニセコ勤務）

「**マルチカルチュラルな職場だったので、仕事に対する考え方の違い**を知りました。外国人のスタッフは、ワークライフバランスの考え方が浸透しているように感じました。」

●K.Kさん（一橋大学・男性・ペンショングランパパ勤務）

「仕事の空き時間には、本来の参加目的であった**卒論の調査に充て、地域のキーマンや住民、観光客などにヒアリング**して歩きました。お蔭で無事に卒論を書き上げることができ、本当に感謝しています。」

●T.Sさん（北海学園大学・男性・アブソリュートニセコ勤務）

「オフの日は、全国から集まった同期の仲間との交流を楽しみました。**同期の存在は、本当に心の支え**になりますし、海外や英語など共通の話題で盛り上がったり、いろんな価値観を知ることができ、視野も広がりました。」

参加者のアセスメント分析結果（1-8期生累計）

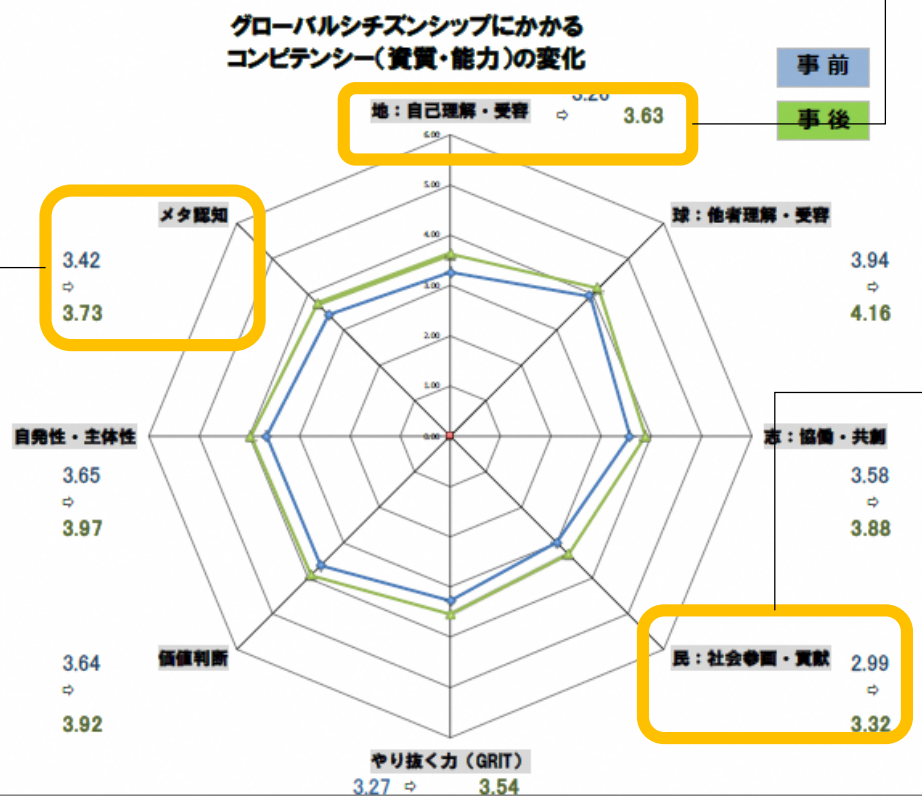
※事前研修（Before）と事後研修（After）にて、参加者から取ったアセスメントを基に
外部コンサルタント（一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト、GiFT）が分析

「メタ認知」
自分を客観的に俯瞰し、
特徴や他者からどのように見られているか認識する力

→海外留学と同様の経験

「自己を知り、受け入れる」
自分の文化・習慣・価値観と向き合い、
自分をより深く、受け入れていく能力

→海外留学と同様の経験



「社会に参画し、還元する」
自分と地域社会との関わりに対する認識や
周囲や社会に対して貢献しようという意欲

**→海外留学では得づらい
地域社会、社会貢献との繋がり**

**海外に行かずとも留学などで得るような体験ができ、
留学にはない地域社会、社会貢献との繋がりが生まれる**

受入企業担当者の声

●デリシャスフロム北海道（飲食業）

「今回受入れした学生はそれぞれのキャラクター・タイプ、動きや様子を見ながら指導を変えるなど、受け入れ側として学ぶことがあった。**様々な方に来てもらうことで、多様性が生まれ、会社としてもよい刺激をもらっていると思う。**」

●ニセコ環境（運輸、廃棄物処理 他）

「**人材を受け入れることはチャンス。**今の時代を知る機会にもなる。外の視点から、課題的希望（こうすればもっと良くなる、など）に気づかせてくれることを望んでいる。」

●ザ・ニセコサプライカンパニー（飲食業）

「外国人スタッフが多い中、日本人を受け入れることは、**接客の仕方などにもいい影響がある。**また、日本人と結婚して家庭を持つスタッフもいるので、地域に人材が残るきっかけにもなる。」

●MnK（不動産管理業）

「地域社会に貢献する企業でありたい。若い内にいろいろと経験をすることは、可能性を広げる。**将来的に、この地域に帰ってきてくれたり、就職に繋がったりしたら、ありがたい。**」

●HTM（マーケティング関連業）

「**語学能力を活かし、翻訳業務、通訳業務では、大きく貢献してくれた。**持ち前の明るさで、イベントの手伝いや取材での通訳も、うまくこなしていた。外国人スタッフとも問題なくコミュニケーションをとれていた。」

●YukiKamui（スキー場運営業）

「地域で地道なゲリラマーケティング（ニーズ調査、営業活動等）を行い、**地元の人たちに愛されるイベントを企画し、成功**した。来年度以降も継続して実施していきたい。」

地域の反応

●地元経済人
「ShiriBeshi留学を応援する有志の会」

倶知安町内経済人有志により、会を結成（会長：古谷眞司氏、協賛企業・個人計27団体）。写真（上）は、事後研修のワークショップに一緒に参加。写真（下）は、事後研修終了後、有志の会主催の屋外BBQの様子。

●地元自治体　ニセコ町　片山町長

「若い人達にこの地域を知ってもらう、すばらしい取組だと思う。ぜひ継続して実施してほしい。」

●事業パートナー
マイス㈱　取締役
丸谷グローバル企画室長

「後志留学に参加することで、なぜ語学を学ぶ必要があるのかを根本的に考える機会に直面する。国際的な習慣を経験することで、日本人であることを意識し、日本人として異文化間で生きることを柔軟に学び将来に繋げて欲しい。」

メディア掲載（一部抜粋）

ShiriBeshi

●HBC「今日ドキッ！」（H30.9.19）

●UHB「EXILE TRIBE 男旅」（H31.2.22から3週連続の特集）

●AERA English（2018秋冬号）

●毎日新聞（H30.12.17）

H30年

「ニセコ留学」高まる関心

英語で外国人を接客

外国人観光客が急増し外国人従業員も多いニセコ地区で、英語を使って接客などの仕事を経験するインターン「ニセコ留学」への関心が高まっている。海外に行かなくても人気のリゾート地で外国語にどっぷりと浸れるとあってリピーターも増え、道が3年目の今冬の参加者を募集したところ、予定の2倍の応募があった。【田所柳子】

3年目 応募予定の倍

●北海道新聞

（H31.2.28、他多数）

英会話実践 人気じわり

ニセコ しりべし留学始まる

【倶知安】大都市圏の大学生らが後志管内で就業体験をする「ShiriBeshi（しりべし）留学」が4日始まった。今回6回目で、これまでで最多の89人から応募があった。多くの外国人が滞在するニセコ地域などで、国内にいながら英会話を実践できるとあって、徐々に人気が高まっている。

後志総合振興局が2016年度から夏と冬に実施している。これまでの延べ参加者数は143人。留学をきっかけに経験者の1人が新年度、倶知安町の企業に就職が決まったという。

今回は応募者の中から面接などを経て東京都、大阪府、鹿児島県、札幌市などから19～26歳の39人が参加する。3月6日までの1カ月間、倶知安、ニセコ、岩内の各町と小樽市の計13の飲食店や宿泊施設で働く。

初日は同振興局で事前研修が行われ、勝木雅嗣局長が「1カ月間を大いに楽しみ、スキルアップしてほしい」とあいさつした。宿泊施設で就業体験する東京都の大学1年生、葛西諒さん(19)は「来年オーストラリアに留学予定なので、その前に英語を使う機会を、と思い参加した。外国人と交流するのが楽しみ」と話した。（内本智子）

事前研修で自己紹介をし合うしりべし留学の参加者たち

たき火やそり イベント楽しもう

就業体験生 辻さん企画 3日にイワナイリゾート

【岩内】町野東のスキー場「イワナイリゾート」で3月3日、そり滑り大会やたき火を楽しむイベント「イワナイ ココロ オドル フェスティバル」が初めて開かれる。大都市圏の大学生らが後志管内で就業体験する「ShiriBeshi留学」で1月から同リゾートで働く関西大学3年の辻いおりさん(21)が企画。「子どもから大人まで多くの人に楽しんでほしい」と話している。

雪のブロックを積み重ねて作るかまくら「イグルー」でコーヒーやココアが楽しめるイグルーカフェと、たき火を見ながら味わうバーベキューを午前10時～午後3時に開催。肉とブロッコリー、チーズのセットなどを販売する。

そり滑り大会は2部制で、午前11時15分と午後2時から実施。決められた時間により近い時間で滑り終えられるかを競う。上位5人にはヒュッテ・レストランの食事券や、雪上車（キャット）で山を上りパウダースノーを滑走するキャットスキーの無料券などが贈呈される。参加費500円。事前申し込みが必要で定員計60人。未就学児は保護者も同乗する。

辻さんは「スキー場はスキーやスノーボードをしない人も楽しめる場所。来年、再来年も続くイベントにしたい」と意気込む。申し込み、問い合わせは同リゾートの吉野大悟さん☎0800・3750・7720へ。（岩内江平）

そり滑り大
ポスターを持

大学との連携
（グローバル人材育成に係る連携協定を締結）

●札幌学院大学（H30. 3. 23）

●北星学園大学短期大学部（H30. 7. 23）

●法政大学（H30. 12. 26）

■連携協力事項
（1）グローバルな視点に立った人的・知的資源の相互活用・交流連携
（2）地域活性化のための連携・協力
（3）地域課題解決に向けた政策の共同研究
（4）国際色豊かなまちづくりに必要な連携・協力

■振興局における連携メリット
①グローバル人材育成プランを推進する当局の施策に合致する
②協定締結により事業が広く認知され、他の大学等への広報・PRになる
③ShiriBeshi留学における安定的な参加者の供給が期待できる

2019年度を終えて

■課題

・サマープログラムは、英語を使う環境が限られる（インターン先などで偏りがある）ため、国内留学のイメージを持ってくる参加者は期待とのギャップがおきやすい。
→事業周知・参加者募集の段階で、夏と冬の違いや特徴を、より明確に伝える必要

・プレとして受け入れを始めたビジネス・マーケティングコース、農業・環境コースについて、参加者の反応はおおむね良かった。

・SDGsのプログラムについては、参加者のモチベーションや興味のあり方によって反応が様々。夏は研修を余裕をもって行うことができるが、冬はハイシーズン中の実施であり、研修の時間が短くなること、また英語やホスピタリティを学びたいと参加者が多い中で、どこまでSDGsの要素を加えるか。

➡ 夏は英語やグローバルといった視点ではなく、SDGsの視点から持続可能な地域づくりを学ぶという切り口でプログラムを企画・募集してはどうか（冬は従来どおり）

次のステージへ向けて

グローバル・シチズンシップの育成
（持続可能な地域づくりを考える）

サマープログラム
「SDGs」

・世界的なリゾートエリアならではの環境がある夏の後志で
ビジネスやマーケティング、
環境・農業などの視点から
持続可能な地域づくりを考える

・SDGs未来都市、環境モデル都市に選ばれている ニセコ町の取組を学び、体験する

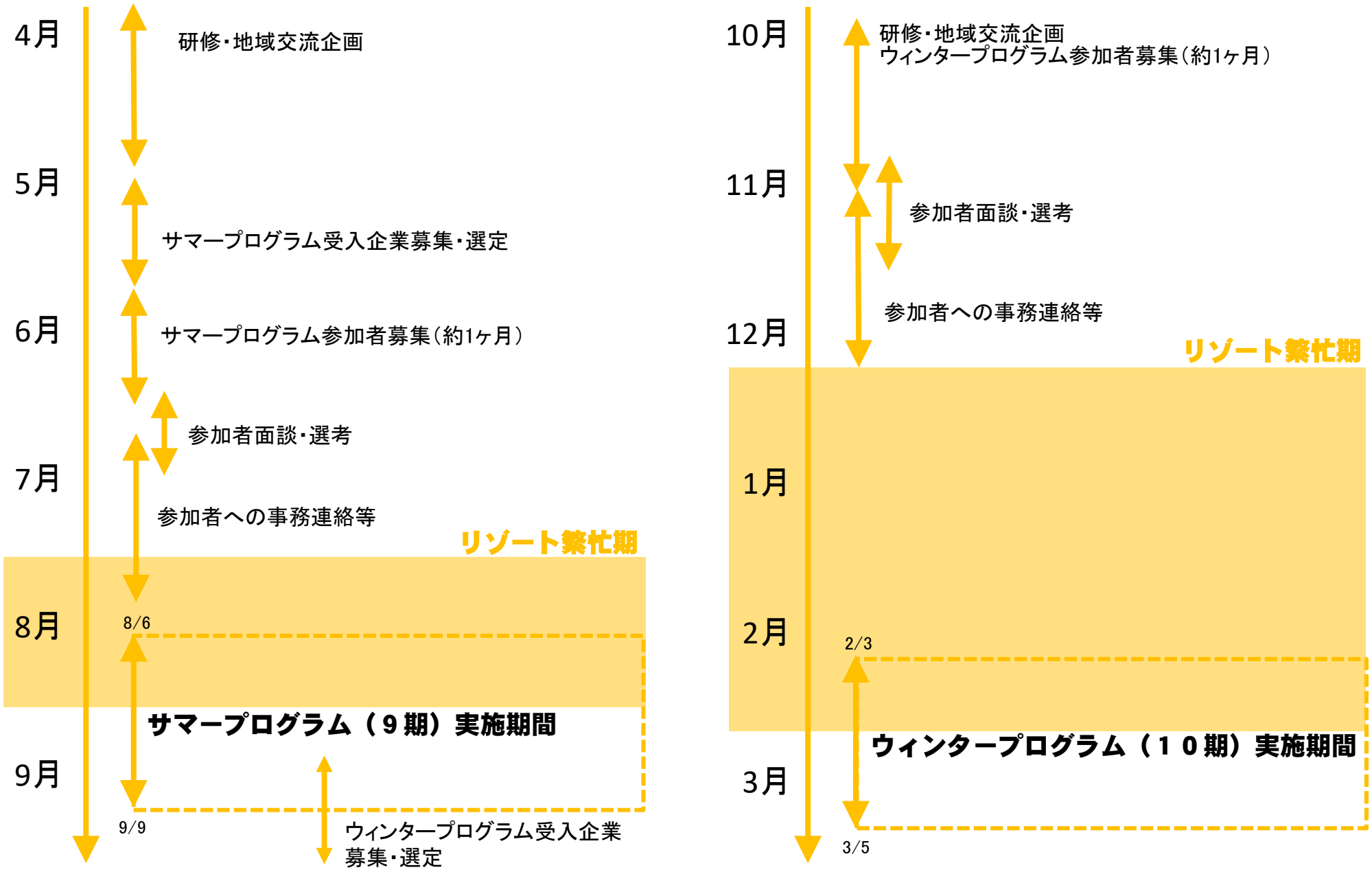
ウィンタープログラム
「グローバル・多文化共生」

・国際性・多様性豊かな冬の後志でホスピタリティ分野のインターンなどを経験しながら、
多文化共生の地域づくりを考える

・インバウンド先進地であり、
G20観光大臣会合が開かれた倶知安町の取組を知り、学ぶ

R2年度 プログラム実施スケジュール（案）

※新型コロナウイルス感染症の発生状況により、時期の変更または中止の可能性があります



今後の情報発信

●後志総合振興局公式サイト　http://www.shiribeshi.pre.Hokkaido.lg.jp/ts/tss/niseko_abroad.htm

しりべし　ニセコ留学　**検索**

・公開情報を更新
（受入企業募集要項、参加者募集要項等）
・過去の参加者の声や報告書等も掲載
・文字情報が中心

正確な情報が分かる

●公式フェイスブックページ　／　公式ツイッター

ニセコ留学　**検索**

@niseko_abroad　**検索**

・随時、関連情報を更新
（地域情報、企業情報など周辺関連情報なども含む）
・画像、動画等が中心

旬の情報・雰囲気が分かる